

## <un X de> + N について<sup>(\*)</sup>

阪上 るり子

### 0. はじめに

フランス語の名詞限定辞には、数詞・冠詞・指示形容詞・所有形容詞など、特有の限定機能を持ち、それぞれ閉じた集合を形成しているものがある。一方で、*un litre de lait, une feuille de papier, un groupe d'étudiants, etc.* のように<un X de>という形式がひとまとまりで後続の名詞に対する限定表現となっているものもある。それらは、*une pomme de terre* のように<名詞1 + de + 名詞2>が複合語を形成している場合や、*un professeur de français* のように名詞2が名詞1に対し形容詞的に機能している場合などとは区別される。つまり、名詞間の表面的な連結構造だけでは抽出できないが、de を介して連結されている名詞表現のなかには、<un X de>がいわば固定した状態で後続の名詞に限定を与えているものがあるということである。

本稿では、名詞限定表現として機能する<un X de>という形式にはどのようなものがあるのか、そして、後続の名詞（以下、N と表記する）にどのような限定を与えているのかを解明するために、基本的な事実を確認しておくことにする。

### 1. 分類

さまざまな言語において、名詞と共に使用される形態素のなかには、名詞が表

すモノの形状や材質、機能などに基づいて用いられる類別詞あるいは助数詞と呼ばれるものがある。例えば、日本語の「本一冊」，「紙一枚」に見られる「冊」，「枚」などである。フランス語でこれに相当するものは<un X de>という形式のなかに現われているが，この形式には日本語の「米一合」，「酒一升」などの類別詞と同様にモノの数量を表す役割を担っている表現も見られる。また，これらとは異なり比喩的に名詞を形容する役割を果たしているものもあることから，この<un X de>という表現形式は，その機能によって次の三つに分類できると考えられる。

### 1. 1 類別詞 (classificateurs)

X になり得る名詞の種類や<un X de>と N が表すモノとの関係を観察すると，類別詞もさらに二つに下位分類できる。

#### 1. 1. 1 単位表現

**A** : une assiette de soupe, un bol de café, une bouteille de cognac, une chope de bière, une coupe de champagne, une cuillère de sucre, un doigt de vin, un grain de diamant, une grappe de raisin, une gousse d'ail, une feuille de papier, un flacon de parfum, un moule de beurre, un seau de charbon, une tasse de thé, une tête d'ail, une tête de bétail, un verre de vin, etc.

ここに挙げた表現の X は，具体的に何らかの個体を想起させる具象名詞である。大きさや色などはさまざまであっても *bouteille* という名詞はガラスやプラスチック製の瓶を，樹木の種類は何であれ *feuille* という名詞は木の葉を意味する。このタイプの X は，*bouteille* や *tasse* のように容器を表す名詞や，*grain* や *feuille* のような一定の形状を持ったモノを示す名詞である。容器 X に入れられるモノを表す名詞や，X が指すモノの形状を取り得るモノを表す名詞であれば，上記以外の N との組み合わせが可能である。例えば，*une bouteille d'eau minérale/de vinaigre/de bière* や *une feuille d'or/de fer* など。chou という野菜

について、話題にしようとするものがその葉の一枚である場合は、*une feuille de chou* という表現で示すことができる。しかし、*bière* や *vin* など液状のものを表わす N については、N が表すモノが日常生活の使用の場において実際に現われる容器 X に入った状態を言語表現するわけである。したがって、*une chope de café* や *un bol de whisky* などは、例外的にそのような現実が存在する可能性はあるとしても一般的ではないし、表現の組み合わせが生活習慣を反映する枠を出ることは少ないと推測できる。

**B** : *une bouchée de soupe, une cuillerée de sucre, une gorgée d'eau, une pincée de sel, une poignée de sable, etc.*

これらの表現の X は具体的な個体例を想起させる具象名詞ではない。X になるのは、何らかの動作を行って計ることができるような数量を表す名詞である。*bouchée, poignée* は動作そのものを表わす名詞ではないが、身体部位を意味する語彙素をもち、それぞれの身体部位を使って行う動作から計ることができる量、「一口」、「一握り」などを表す名詞である。スプーンで計った量の「一杯分」を表す *cuillerée*<sup>(4)</sup> も動作を行って計った数量表現の一つという点が身体部位の名詞と共通していると考えられる。

**C** : *une boule de fil, une couche de peinture, une goutte de vin, un morceau de sucre, un pain de sucre, une pièce de chocolat, un rouleau de papier, une tablette de chocolat, une tartine de pain, une tranche de jambon, etc.*

このグループの X は、*boule, morceau, rouleau, tranche* など、それぞれ「球状のもの」、「何らかの塊」、「巻きもの」、「表面積のある薄い断片」という形状を意味する名詞である。X の形状を取り得るモノを表す N は、現実そのモノがとっている状態によって *un morceau de jambon, une tranche de jambon, un morceau de pain, une tranche de pain* と表現される。また、特定の単位を示すために X の語義に由来する使い分けもなされている。何らかの塊を意味するものでも *pièce* はそれ自体である全体を構成する限られた量を意味する名詞であ

るので、*une pièce de terre/de bois/d'étoffe* は、それぞれ「土地一区画」，「製材された一枚の板」，「一着分程度の布一枚」を表す<sup>(2)</sup>。*morceau* は具象物の塊を表すのが一般的な語であるが、例外的に音楽の「一曲」を意味する場合の固定的な表現 *un morceau de musique* にも用いられる。

以上、三つに下位分類して見た<un X de >という単位表現は、Nが物質を指す場合に用いられて、その物質が存在している状態を特徴づけながらそれぞれの単位を表す。そしてNはほぼ単数形である<sup>(3)</sup>。また、必要に応じて量に関する情報を加えるとき、Xに *petit, grand, gros* などの形容詞を付けることも可能である。

### 1. 1. 2 集合表現

次に、Nが表わすモノの形状に基づいて組み合わせる<un X de>が集合を意味する表現を見ていこう。このタイプはXになり得る名詞によって二つに下位分類できる。

**A** : *une barquette de framboises, une boîte de chocolats, une caisse d'oranges, un pack de yaourts, un panier de cerises, un paquet de chipes, un sac de bonbons, etc.*

これらの表現のXは何らかの容器の個体例を想起させる具象名詞である。そしてNは個体として存在するモノ(*framboise, orange, cerise*)や加工された結果個体の形をとっているモノ(一口サイズの *chocolat* や一個づつ包装された *bonbon*)などを指す名詞で複数形をとる。

**B** : *un banc de poissons, une botte de radis, un bouquet de fleurs, une compagnie de cerfs, une couvée de cailles, un faisceau de branches, une gerbe de roses, une grappe de fruits, un groupe d'étudiants, un régime de bananes, une série d'instruments, un tas de cailloux, une touffe de cheveux, un train de pneus, une troupe de singes, un troupeau d'éléphants, un trousseau de clefs, une volée d'oiseaux, etc.*

ここに挙げた表現の X は何らかの集合を意味する名詞である。N との組み合わせに関しては、習慣的に固定しているものがほとんどであろう。

動物の集団を表す X については、*banc*<sup>(4)</sup> は魚類に、*compagnie* は群生鳥獣類に、*troupeau* は象・牛・羊・家畜類に、*volée* は鳥類に、*couvée* は親鳥に抱かされている卵ないしかえったばかりの雛類の集団に対して使われる。

束ねたものを意味する X も複数あるが、*botte* は *asperge*, *carotte*, *poireau* などの野菜類か *paille*, *foin*, *épi* などの草植物に用いる。細長い植物を束ねたものを表すには *faisceau* や *gerbe* があるが、N との組み合わせに使い分けがなされているのは習慣によるものであろう。

*grappe* は同じ花柄に実った果物の一房を、*régime* はバナナや耶子科の植物の一房を表す。

*groupe* は比較的広い意味の集団を表す語なので、N との組み合わせも人・生物・無生物を問わず *un groupe de mots/d'arbres/de maisons* とさまざまである。一方、*troupe* は *une troupe de chanteurs/de touristes/de singes* など人・生物を表す N と組み合わせるのが一般的である。

上に挙げたもの以外に *un couple de* や *un tandem de* など集合の要素数が固定されている表現もある<sup>(5)</sup>。

## 1. 2 限量詞 (quantificateurs)

次に、<un X de> の X が数・量・単位を表わす場合を見ていく。これも二つに下位分類できる。

### 1. 2. 1 X が度量衡の単位や限定された数を示す名詞

**A** : 長さ : *un centimètre de cicatrice, un mètre de fil, un kilomètre de grille, etc.*

**B** : 面積 : *un are de terrain, un hectare de champs, etc.*

**C** : 体積・容積 : *un décilitre de mercure, un litre de lait, etc.*

**D** : 重量 : *un milligramme de nicotine, un gramme de cocaïne, un kilo de*

viande, un livre de sucre, etc.

これらの限量表現の N は物質名詞・抽象名詞など不可算名詞が多い。N は単数形をとることが多いが、重量表現に関して計量するものが具象名詞のときは複数形をとることもある。vacances のように複数形でしか用いられない N もある。

**E** : 時間の長さ : une minute de silence, une heure de cours, un jour de congé, un mois de vacances, un an de stage, etc.

時間的表現 X として une journée d'excursion, une année d'absence などもある。X に jour/journée, an/année のペアのいずれを選ぶかは、伝えようとする事の意味に応じて発話者がそのつど決定する。

**F** : 一定の数 : une cartouche de Gauloises, une douzaine d'huîtres, un million de francs, un milliard de yen, un billion de dollars, etc.

ここに挙げた表現の X は、一定の数を表し<sup>6)</sup>、N の正確な数を示す役割を果たす。N はそれが表すモノが X が示す数で計る習慣のあるものであればよく、習慣的に単数表記されるものを除き複数形をとる。

### 1. 2. 2 X が限定されない数・量を指す名詞

une masse de gens, un minimum de savoir-vivre, une multitude d'épisodes, un nombre de livres, une quantité d'énergie, etc.

nombre は数を意味するので可算名詞の N を伴う。その他の X は、量を意味する名詞であるので多様な N の可能性がある。N は物質名詞の場合もあれば抽象名詞の場合もあり、単数形または複数形をとる。このグループの X は bon, certain, faible, fort, grand, petit などの前置形容詞や considérable, important, remarquable などの後置形容詞と共に用いられることも多い。

### 1. 3 形容表現 (qualificateurs)

これまで類別詞と限量詞の <un X de > + N の例を見てきたが、個々の表現を厳密に類別詞あるいは限量詞としてだけ機能するものと分類してしまうことは

困難である。1.1と1.2に挙げたものは日常よく用いられる<un X de>+Nの組み合わせ例である。しかし、普通は動物の集団を表すために用いる<un X de>を *une couvée d'enfants, un troupeau de bambins* の様に軽蔑的なニュアンスを表すために用いる場合があるので、XやNとなる名詞が表すモノ同士の組み合わせに意味的なつながりが成立するならば、さまざまな<un X de>+Nの可能性があると推測できる。したがって、形容表現とは1.1と1.2とは異なるタイプの名詞限定の働きをする<un X de>の形式をとる表現と、比喩的な意味で用いられる場合の1.1や1.2の表現とを包括するものということである。

ここでは、<un X de>がNに対して比較あるいは比喩的な特徴を示す役割をする表現を見ていく。1.1と1.2の場合と同様にXになり得る名詞の意味からいくつかのパターンを抽出することは可能と考えられる。そのためには例を多く収集し少なくとも発話レベル程度の文脈におけるXとNの関係について考察を進めるべきであり、本稿ではそれを試みる以前の段階として数例の紹介にとどめる。

### 1. 3. 1 Xが限定されない数・量の意味を含む名詞

*une cascade de monnaies/d' applaudissements/de bêtises/de citations/d' injures/ de rires/etc.*

具象物であれ抽象概念であれ多量で滝に例えることが可能なモノを指す名詞とは組み合わせが可能であり、おびただしさを表す。

*un flot d' arrivants/d' injures/de touristes/de véhicules/etc.*

水流・海流に例えることができるモノであれば*cascade*の場合と同様の比喩表現が可能。*verser des flots de larmes*や*couler des flots d'encre*のようにXも複数形で「とめどなく涙を流す」や「大量に書きまくる」という表現を形成する。*un torrent d' injures*も同類表現で*des torrents de musique/d' harmonie*のようにXも複数形をとって量が多いことを意味する比喩表現もある。

*une série de casseroles/d' instruments/d' accidents/d' articles/de malheurs/etc.*

何らかの一式・一揃え・一続きを表す集合表現でもあるが、Nが道具類の場合、

同じ大きさではなく少しずつ異なった大きさのものの一揃いを示し、Xの語義である連続の意味と両立するモノを表すNに用いられる。また、抽象名詞についても連続生起という時間的な流れのなかに位置づけ可能な意味をもつものが多い。un défilé de clients/de manifestantsなども同様の表現。

### 1. 3. 2 Xが種や様式などを意味する名詞

une espèce de fleur, un genre de roman, une sorte de science, un style de programmation, etc.

例えば、*La linguistique est une sorte de science.* のような発話の<un X de>は、言語学をNのなかの一種として同定する役割を果たしている。しかし、正体が分からない何かの液体を目前にして言われる *C'est une sorte d'eau.* という発話の<un X de>は、ceの指示対象がNのようなものであると記述しているのであり、機能が異なる。これはコピュラ文の多義性とも関連する問題である。

また、un espèce d' idiot/d' imbécile/de salaudのように本来女性名詞であるXがNの性の限定詞に先行される場合がある。この現象は<un X de>という形式におけるXの名詞としての自立性にかかわるものと言える。これに準じる表現として *une drôle d' histoire, un drôle de type* を挙げることができる。本来、*drôle* は男性形・女性形が同じ形容詞であるが、名詞として用いられる場合、伴われる限定辞がNの性に左右されるのは同様の現象である。

### 1. 3. 3 その他の表現

un nuage de lait/de poudre/de mousseline

コーヒーあるいは紅茶に入れる少量のミルクを意味するときに使用される表現であるが、コーヒーにミルクを入れた瞬間、雲のように広がっていく様子から生れたと思われる表現であり、これら以外の組み合わせは雲と関連づけが可能なものに限られるであろう。

un soupçon de lait/ de rouge/de vanité

この表現のXもその本来の意味そのものではなく、疑いを抱くくらいのみならず



かな量の N を意味する比喩表現である。

### un paquet de nerfs, un fagot d'épines

これらは N が複数形で、その集合のように「非常に神経質」や「とっつきにくい人」を意味する慣用表現である<sup>9)</sup>。

## 2. 他の限定辞と<un X de> + N の関係

1章では表現の分類を試みたわけであるが、さまざまな専門分野で習慣的に用いられる単位表現や数量表現などを合わせると他にもこの形式の表現は多くあると類推できる。

一般的なフランス語の文法書で類別詞という項目を設けて記述してあるものはあまり見かけない。また、類別詞は日本語・中国語・タイ語・ヴェトナム語などにおいて特に多く、ヨーロッパ語などには少ない形態素であるかのように紹介している辞典<sup>9)</sup>があるが、なかなかどうしてフランス語においても豊かである。英語にも<a X of>という形式で同類の表現は数多くあるし、他のヨーロッパ語においても表現形式は異なるかも知れないが類別詞に相当する形態素は存在すると考えられる。

<un X de>の名詞限定表現としてのステイタスについて考察を進めるには、他の名詞限定辞との関係を見ていく必要がある。限程度の高い定冠詞・指示形容詞・所有形容詞を初めて発話のなかに導入する名詞に用いるには文脈上の条件が必要であるので、<un X de>とパラダイグムを成しているのは数詞・不定冠詞・部分冠詞・不定形容詞・副詞+de からなる表現である。これらを見比べると、1.1の類別詞と不定冠詞・部分冠詞との競合や1.2の限量詞と不定形容詞との競合など、それぞれの限定表現同士の関係の問題が喚起される。ここでは<un X de>の形式と不定冠詞・部分冠詞の関係について考察する。

## 2. 1. 不定冠詞と部分冠詞

初めて発話に導入する名詞に用いられる限定辞のなかでも、不定冠詞と部分冠詞は情報量が少ないものと言える。両者の使い分けの基本は、発話者が導入する名詞が指すモノを数えるものとして、または数えないものとして扱うかによる。しかし、個体例が想起されやすいモノを指す名詞・されにくいモノを指す名詞がある。それが可算名詞・不可算名詞という分類の根拠となっている。名詞の分類の問題については稿を改めて論じる予定であるが、名詞を次のように分類することは可能である。

数実体名詞	個を表す	: ami, bébé, chat, femme, maison, etc.
	集合を表す	: armée, foule, groupe, troupe, etc.
量実体名詞		: argent, beurre, bière, café, eau, etc.

具象物を指す名詞でも、個別実体としての状態を想起させることが珍しいモノを指す名詞 (beurre, eau, riz, etc.) に不定冠詞を用いても (?un beurre, ?une eau, ?un riz, etc.) それは何を意味するのか不明である。習慣的に一杯の飲み物としての存在がすぐ想起される場では une bière, un café のような表現が示す意味は明らかだが、それは状況・文脈・習慣から名詞が指すモノの個としての存在が一般的であるからである。では、習慣的に個としての存在が想起されないモノでも、個として存在しているモノとして言語化する必要が生じた場合、フランス語ではどのように処理しているかという疑問が湧くが、それを担っているのが <un X de> という形式だと考えられる。例えば、テーブルの上に置かれているコップ一杯の水や瓶入りミネラルウォーターを話題にしようとするとき、de l'eau や une eau では現実を正確に言語化しているとはいえないので、un verre d'eau, une bouteille d'eau minérale という表現が適切である。つまり、不定冠詞や部分冠詞では表わし切れない現実を <un X de> という形式が表わす役割を果たしているのである。

## 2. 2. 範疇化と<un X de>

言語表現の使用の背景には、発話者によるさまざまな言語操作が関与しており、発話にその痕跡が現われている。言語表現そのものにも人間が行うさまざまな認知行為・操作の痕跡が現われていることもある。

量実体を表す名詞に伴われることが多い<un X de>には、1.1の類別詞(*une assiette de soupe, une cuillerée de sucre, un morceau de viande, etc.*)や1.2の限量詞(*un kilo de beurre, un litre de lait, un are de terrain, etc.*)などがある。これらの<un X de>は、Nが指すモノの物質的特徴にかかわらずNに個としての存在というステイタスを与える表現である。言い換えると、<un X de>という形式のなかには個別化(*individulalisation*)という認知操作を顕在化するためのものがあるということである。

そして、個別実体を表す名詞に用いることができる1.1.2の集合表現(*un banc de poissons, une barquette de framboises, une boîte de chocolats, une couvée de caillles, etc.*)の<un X de>は、Nの集合であるものが個としても存在しているという集合化(*reformulation en ensemble*)と個別化という二重の認知操作を顕在化するものである。

さらに個別化を表す<un X de>を見ると *un baton de chokolat/une tablette de chokolat/un morceau de chokolat* や *un rouleau de papier/une feuille de papier/un morceau de papier* のようにNが表すモノが存在している状態について長さ/面積/体積という観点からの範疇分けの痕跡も<un X de>という形式にのなかに現われていることがわかる。

## 3. おわりに

<un X de>+N という表現形式を大きく三つに分類して概観したわけだが、組み合わせ表現例の観察だけでは、X と N の関係について不明な点が多い。この

表現形式は名詞限定表現という文法的カテゴリーの一部とみなし得るものであろうが、少なくとも発話のなかに生起している例や、広い文脈における例、代名詞変換の可能性、前置詞 de の役割など、観察枠を広げて検討することが今後の課題である。

また、教育的観点からもこの表現形式については注目すべき点があると思われる。一般に、初級文法レベルでの名詞限定辞の導入はかなり早い時期になされる。フランス語の冠詞という形態素そのものの記憶に学習者はさほど困難を覚えないうのだが、それを使いこなせるレベルに達するにはかなりの努力を要する。とくに部分冠詞の使用に困難・抵抗を感じる初学者は多いように見受けられる。入門段階で習得する名詞のなかに café や eau など含まれる。何か欲しい飲み物を尋ねられているという文脈で、日本語でなら「コーヒーが欲しい」と言うようなときにそれをフランス語で表す場合、名詞に付ける限定語として un を選択することを、コーヒーが供される状態としてカップに入った一杯を想像しているという自覚があるかどうかは確かでないとしても、初学者はさして困難を覚えずに行うようである。しかし、喉が非常に乾いていてとにかく水を飲んで喉を潤したいという文脈で、その欲求をフランス語で表そうとするときに用いるべき冠詞は何か、というときの冠詞の選択には悩むようである。une eau とは言わないように感じて、部分冠詞の選択に思い至るには時間を要するようである。日本語でなら「とにかく水を一杯下さい」とでも言えるであろうが、この場合の「一杯」は必ずしもコップに入った一杯きりの量を意味しているわけではなく、その程度の量という意味である。このような類推から習得しやすい表現として、物質名詞を導入するときに <un X de>+N タイプの可能性もあるという知識は、日本語母語話者にとっては有効に作用し得るのではないだろうか。コミュニカティブ・アプローチタイプの学習書などにはこの表現形式の学習が盛り込まれているものが見られるが、文法教育のなかにも導入し、冠詞・指示形容詞・所有形容詞や beaucoup de, un peu de, peu de, quelques, plusieurs などの名詞限定表現と並べ

て体系的な学習に値する表現形式であるということを提言して結びとしたい。

注

(\*) 石野好一氏（東京都立大学）には表現の収集過程で貴重な資料を提供して頂いた。ここで改めてお礼を申し上げる。

(1) **cuillère, cuillerée** は、それぞれ *à café, à dessert, à soupe* というスプーンの種類を示す表現付きでより正確な単位・数量表現を構成する。

(2) 他の表現については、泉 (pp. 53-54) 参照。

(3) **une assiette de frites** のように N に複数形の名詞がくることもある。この表現の場合、実際にじゃがいもを細長く切って揚げたものが複数、皿に盛ってあるモノを意味するので集合表現とも解釈できるが、**frites** はそのようなじゃがいも料理を意味するとみなし、単位表現に分類した。

(4) **banc** は多義語でベンチも意味する普通名詞であるが、ここでは群れの意味。また、**train** も同様に一組みの意味。

(5) 詳しくは、石野 (pp. 22-23) 参照。

(6) **une cartouche de** は 1.1.2 の A に相当する集合表現とも考えられるが、通常 10 箱という一定の数を示すので限量表現とみなした。

(7) 1.2 の A に挙げた表現でも、**un sac de riz** のように X が 1 キログラム入りの袋を指す場合などの <un X de> は限量表現とみなし得る。他には「良識のかけら」を表わす **un gramme de bon sens** などもある。また、**une grappe de** も、例えば子供達が遊戯具に群がりふら下がり遊んでいる様子を、葡萄の一房に見立てて比喩的に用いることも可能であろう。

(8) その他の例については、石野 (pp. 32-33) 参照。

(9) 言語学辞典 (pp. 1398-1399) 参照。

#### 主要参考文献

石野好一 (1998): 『パターンで覚えるフランス基本熟語』, 白水社

泉邦寿 (1989): 『フランス語, 意味の散策一日・仏表現の比較-』, 大修館書店

『言語学大辞典』, 6, 述語編 (1994), 三省堂

CHARAUDEAU, P (1992): *Grammaire du sens et de l'expression*, Hachette.

GROSSE, G. (1996): *Les expressions figées en français: nom composés et autres locutions*, Ophrys.

CADIOT, P. (1997): *Les prépositions abstraites en français*, Armand Colin.